



Referee Time

(審判だより77号)

2025.7.28

みなさん、こんにちは。

今年度上半期も皆様のお力添えを頂き順調に大会運営がすすんでおります。

あらためまして、ありがとうございます。

今回は、令和7年度A級審判員審査を受験しました崎田尚孝さん(八重山ハンドボール連盟所属・審判長)と九州中学生クラブ大会へ審判員として参加されました長嶺翔太さんより、大会報告が入っておりますので、皆様へ報告致します。

西地区 A 級審査会・第 61 回九州一般ハンドボール選手権大会に参加して

沖縄県ハンドボール協会 審判員 崎田尚孝

令和7年5月10日に沖縄県で行われた西地区 A 級審査会に参加しました。A 級審査会では、開講式を行い、筆記試験(選択・記述)40分のあと実技審査に向けての確認、その後割り当てられた試合の実技審査がありました。体力テストのシャトルラン(77回)は2月の九州ブロック審判研修会で実施済みの為ありませんでした。

審査会までに、普段みなさんがやっていることだと思いますが、各カテゴリーでの審判担当、ペアでの振り返りをおこない気になったところを整理していく、担当した試合の後には助言をもらい、A 級の先輩方の試合を含めペアで試合の観戦、筆記試験(競技規則問題2025年版)の勉強等の取り組みを行いました。

審査会

- ・ A 級を取得する＝全国大会ベスト 8 以上の試合を担当する。もしくは、接戦が予想される試合の担当、リーグ H を担当させることができるかどうかということを強く言われた。
 - ・ 審判員の心得 10 箇条を意識して試合に臨む。「笛は人格を現す」
 - ・ 「ハンドボールのイメージを守る」、「選手の安心・安全の確保」、「公平性・バランス」を意識してゲームマネジメントを行うこと。
 - ・ 競技規則 8 条を理解し、許される行為・許されない行為をしっかりと観察し、許されない行為があった場合の罰則(イエローカード、2 分間退場、レッドカード、ブルーカード)を適切に判断し運用する。
 - ・ ゴールエリア際 PV ゾーンでの攻防の見極め。
 - ・ 前半 15 分で基準を示し最後まで維持すること。イエローカードや口頭でのインフォメーションで選手・ベンチに知らせる。
- 以上のことを特に意識して試合に臨みました。

今回沖縄県の審判員として A 級審査会に参加・挑戦する機会をあたえて頂きありが

とうございました。A 級審査会に参加するにあたり、たくさんの方々から助言を頂きました。宮城会長、前上里審判長、沖縄県ハンドボール協会の皆様に感謝申し上げます。まずは地元の試合を大事にしながら審判活動していきたいと思います。競技規則の理解を深め、審判員の心得 10 箇条を意識し、「笛は人格を表す」ということを肝に銘じて選手が練習してきたことを発揮させ、安心・安全にプレーさせることができるようなレフェリングを心がけていきたいと思います。これからも審判員同士で切磋琢磨しながら安心してゲームを任せられるレフェリーを目指して自己研鑽していきます。

九州中学校クラブカップに参加して

西原南小学校 長嶺翔太

今回、7 月 5 日 6 日に熊本県天草市で行われた九州中学生クラブカップに参加させていただきました。各県を代表する中学校クラブチームが男女 5 県から集い、全国出場枠を争い熱戦が繰り広げられました。

私個人の話になりますが、これまで県内で行われた九州大会審判員として参加したことはあったものの、移動・宿泊をとまなう九州大会への参加は初めてでした。この大会を通じて感じたことや学んだことについて記載させていただきます。

一つ目は、「競技規則のしっかりとした理解と適切な運用の重要性」です。これまで、前上里審判長から「起きた事象を競技規則に照らし合わせて正確にレフェリングしていくことが大切」というお話を何度もお伺いしていました。そのため試合終了後に気になったプレーに関して競技規則を確認しながら振り返るようにしてきました。

しかし、今大会を吹笛させていただく中で、起きた事象と競技規則が結びつかない場面がいくつかありました。今後は瞬間的に判断して笛を吹くことができるよう競技規則の理解をより深めていくようしなければならぬと感じました。

二つ目は、「安心安全なゲーム運営」です。こちらは大会前に配布された事前資料に記載された言葉になります。開始 15 分で基準を作り、これを試合終了まで一貫し、両チームの良さを引き出すためにレフェリングを行うことを意識して試合に臨みました。選手・ベンチ役員と適切にコミュニケーションをとることで「見てくれている」という安心感を与えることができることを今大会を通じて改めて感じました。この気づきを今後に生かしていきたいです。

三つめは「余裕のあるレフェリング」です。前述したとおり、今大会が移動・宿泊を伴う初めての九州大会でした。慣れない会場、移動の疲れ等これまで経験のない環境でのレフェリングとなりました。初日は 2 試合担当させていただいたのですが、2 試合目は 1 試合目に比べて体力的に厳しい面があり、いっぱいいっぱいの中で吹笛していると感じました。

今後は「走力を身につけること、たくさんの試合を吹き経験を積むこと、競技規則の理解を深めること」を意識し、余裕のあるレフェリングをできるように自己研鑽に励みたいと思います。